本校における「誇り」と「伝統」の創造と伝承に対する原動力を与えることになるような造仏入魂の角度から，われわれのテーマと真剣に取り組みたい所存である。 （戸 苅）

第 5 報　生徒会と H. R. の有機的相互作用をねらった生徒の管理・指導

Ⅰ．はじめに

われわれが生徒に接触する場面は，授業，H．R 生徒会，クラブなどいろいろあるが，そこには必ず教師の立場からの指導が行なわれ，助言があたえられている。そうした指導や助言の加えられる場としてH．R の果している役割は大きい。生徒は学校生活の大部分をH．R で学習し，生活している。精神的に大きく成長してゆくこの年代にあって，1人1人についてみるとその発達の個人差，考え方の差は相当大きい。そうした因子の集まりであるH．R を1つの方向に向けてまとめあげてゆくには相当の困難が伴うことは言うまでもない。われわれはH．R をまとめあげてゆく1つの方法としてH．R における小集団活動を考えてみた。生徒は学校生活のいろいろな場面で，いろいろな集団を構成している。たとえば，勉強仲間，遊び仲間，おしゃべり仲間，クラブの仲間等々，いろいろな集団があり，1人の生徒が1つだけでなく，ある時はこの集団，別の時には他の集団とその所属はいくつかにわたっている。しかもそれらの集団は固定されたものではなく，常に変化し，流動性をもっている。また集団の人数も均一でなく，質的にも他クラス，他学年の生徒がまじっている場合も少くない。

そこでH．R という1つのまとまりを作りあげ，学校全体という大きな立場からみて，H．R に統一性と方向づけを行うことが，その学校の校風や伝統を作りあげてゆくために重要であるとするならば，どのようにしたらということが課題となってくる。そこでH．R の中をいくつかの小集団に分け，その小集団を或程度固定し，H．R のL．T の計画や運営をそれぞれの集団に課題として与えることによって，それらの小集団に統一性と方向づけを行うことを考えた。

以前，H．R のL．T の計画はH．R によってばらばらで，あまり組織的，計画的に行なわれていなかったために，時には時間をもてあますようなこともあった。しかしこのようにしてH．R の全員がいくつかの小集団に分かれ，自分達のH．R のL．T の計画と運営に直接参加することによって，自分を考え，他人を理解し，更にH．R という大きな集団のことを考えるようになり，H．R の一員であるという自覚と責任をもつようになる。さらにこのようにしてH．R のL．T の計画と運営が成功するならば，生徒個人及びその生徒を含む集団は，同じ目的に向って協同し，1つの仕事を成しとげることの意義を知り，それが更にH．R のまとまり，生徒会やクラブ活動への積極的参加の形となってあらわれてゆくであろうと考えた。そこで，こうしたH．R 活動に学級担任の適切な指導，助言が必要なことは勿論であるが，基本線における全校的な統一と方向づけを行うために指導部が中心となって，H．R担任会議，H．R 室長会議を設け，H．R の指導に直接，間接に援助を加えてゆくこと，また別の側面として，生徒会活動の活発化のための朝礼の方法の改善，更にこうした集団からはみだす個人をチェックし，指導するために個人指導カード，システムを中心とした一連の個人指導を考えた。

以上のように，H．R の運営を中心とした，いろいろの試みについて昨年も研究発表を行ったが，今年度もそれを更に発展させ，昨年の研究との比較や新しい試みのいくつかによって，生徒指導の基盤としてのH．R のあり方，更に合理的な指導組織の確立と運営方法を見出してゆきたいと考えた。

今回の発表は特にH．R の運営と指導に重点を置き，指導部を中心として各H．R 担任の協力を得て行ったいくつかの試みをまとめたものである。

Ⅱ．H．RのL．Tの計画，運営と記録

1．L．Tの計画

L．T の計画は各学期のはじめに各H．R ごとにその学期の全体計画をたてる。計画のたて方はそれぞれのH．R によって少しずつのちがいはあるが，大別すると1つは最初にH．R 全体で計画し，その運営をいくつかの小集団で分担して運営する方法と，H．R を最初にいくつかの小集団に分け，その小集団がそれぞれ1時間分の計画をたて，それをH．R 全体で審議，調整するという2つの方法にわけられる。大体の計画ができたところで室長会議をもって，レクリエーションなどのためのグランドの使用や，特別教室の使用についての調整，生徒会や指導部より出される全校同一テーマによる討論会の計画や，他のH．R と合同で行うL．T など縦，横のつながりをもったものが話し合いによって計画，調整され，その学期のL．T の計画ができあがるのであるが，その間，担任や指導部が各過程において種々の指導，助言を加えることは言うま

でもない。

2. L.Tの運営

L.Tの運営にあたっては計画の段階と関連して，各小集団が責任をもって運営にあたる。また共通のテーマのL.Tが計画された場合や，合同H.Rの場合にはあらかじめ責任者が会合をもち，方法や討議のすすめ方などについて話し合いをしたうえで実施する。

L.Tの時間が木曜日の第6限に全校一斉に実施するよう時間割が組まれているので，合同H.Rや時間延長が簡単に実施できるようになっている。

3. 実施後の記録

各H.Rの書記はL.T実施後，その時間のテーマ，内容，感想について記録し，指導部に提出することになっている。これによって各H.RのL.Tの実施状況を総合的に把握し，反省と以後の活動の参考資料としている。

4. 1学期のL.Tから

(1) 1学期のL.Tの実施状況（テーマの一覧）

学年 クラス / 月 日	1 A	1 B	1 C	2 A	2 B	2 C	3 A	3 B
4/21	L.Tの計画	L.Tの計画	ソフトボール大会について	L.Tの計画	バレーボール	ソフトボール	L Tの計画	掃除について
4/28	ソフトボール	S.Tの運営について	ソフトボール	男女交際について	男女交際について	男女間の壁について	高三になっての抱負	高三になって希望と心構え
5/12	生徒会予算について	生徒会予算について	ソフトボール	遠足について 生徒会予算について	遠足について 生徒会予算について	遠足について 生徒会予算について	遠足について 生徒会予算について	皆で歌おう
5/19	生徒会予算について　（生徒総会，生徒会執行部主催）							
6/ 2	H.R代表と生徒会について	ソフトボール	ソフトボール	ソフトボール	男子の言い分 女子の言い分	高校生の友情	受験勉強について	大学進学について
6/ 9	ソフトボール	席がえについて	H.Rの諸問題の解決法	高校生活と先生とのつながり	草取り作業	男子の更衣室の利用	フオークダンス	ソフトボール大会の反省
6/16	席がえについて	読書会	友達とはどうあるべきか	フオークダンス	室内ゲーム	しりとり歌合戦	人物評価	ソフトボール
6/23	水泳	S.Tの利用法	読書会	クラブと勉強は両立するか	高校生のものの考え方	ふたたび友情について	将来の見通し	バレーボール
6/30	一学期の反省	読書感想文の発表	バレーボール	水泳	理科系 文科系	レコード鑑賞	一学期をふりかえって	夏休みの計画

(2) 印象に残ったL.T

1学期に実施したL.Tの中で特に印象に残ったものについて調べてみた。

〔問〕 1学期に行なったL.Tの中で一番印象に残ったものの主題とどういうことが印象として残っているかを書きなさい。

B．発展的目標をもった生徒の管理・指導

まずはじめにこの質問に対して，どの程度の解答が得られたかは下のとおりである。

H．R ＼ 解答	1A	1B	1C	2A	2B	2C	3A	3B	平均
有記(%)	60	86	72	82	56	72	84	68	73
無記(%)	40	14	28	18	44	28	16	32	27

この調査は生徒全員に対して行ったももであるが，学年差は特に認められないがH．Rによって差が認められる。昨年行なった同じ調査の解答率は平均が有記80%，無記20%で今年度よりも無記が少いが，特に両者に差があるとも思われない。そこで印象に残ったL．Tの中で，ある程度の票数を集めたものをH．R別にあげたのが下の表である。

印象に残ったH．RのL．T

	テーマ	票数	昨年度の同じ調査の結果	
1A	1学期の反省	10	日本の軍備について	27
	ソフトボール	6	男女交際について	20
	H．R代表と生徒会について	4	友情について	10
			ベトナム問題について	9
1B	S．Tの運営について	17	フオークダンスについて	9
	読書感想文の発表	16	レコードコンサート	9
	席がえについて	5	バレーボール	9
1C	友達とはどうあるべきか	27	水泳	7
			ソフトボール	4
			グループ作り	4
	ソフトボール	4	クラス役員選出	4
2A	クラブと勉強は両立するか	25		
	高校生活と先生のつながり	5	恋愛について	21
2B	理科系，文科系	12	プラズマ研究所見学	36
	男子の言い分，女子の言い分	4	読書について	4
2C	友情について	20	水泳	6
	男女間の壁について	5		
3A	フオークダンス	10	X氏からの手紙	21
	人物評価	9	三分間スピーチ	15
	将来の見通し	6	入試について	7
3B	夏休みの計画	13	レコードコンサート	7
	大学進学について	8	バレーボール	6
	皆んなで歌おう	8	進学について	4

まず全体的にみて意外であったことは，計画段階においては，校内大会の年間計画などとも関係してソフトボールやバレーボールなどレクリエーションへの希望が相当多く，各H．Rでその調整に苦労したにもかかわらず，この印象調査には，それが余りでてきていないということである。その理由については，いろいろの見方があろうが，一つは，そうしたものがH．R全体のまとまりある活動，まとまりという点でその効果がうすいということも言えるのではなかろうか。だからフオークダンスやコーラスなどと同じように考えるわけにはいかない要素があるように思われる。

次にこの表と前記の有記，無記の表とをくらべてみると，大体において有記の多いH．RのL．Tには，何か特に生徒の印象に残ったテーマが1つ2つみられる。それはテーマそのものが生徒の身近な，切実な問題をとりあげ，その運営がうまく行なわれた場合であろうと思われる。また，学年的な傾向としては本校の学年別指導目標が，高1は新しい環境への積極的適応，高2は集団の中での個性の伸展，高3は3ケ年の生活のまとめと新しい社会への準備にそれぞれおかれていることの反映もあると考えられるが，高1が主として学校生活への適応，H．Rの運営方法などに焦点がしぼられ，市の内外のいくつかの中学校から寄り集ってきたものと約半数を占める附中出身者との複雑な寄り合い世帯が1つのH．Rにまとまろうとする努力の現われとみてよいであろう。高2の場合は男女交際やクラブと勉強の問題など学校生活の中心となって，その生活を更に深めていこうとする意欲の現われがみられる。それに対し，高3になると進学，就職の問題や自己の将来について，みんなと話し合いたいというようなところに焦点がしぼられているように思われる。昨年の同調査と比較してみると，テーマの重複は意外に少なく，うわべのテーマそのものよりも，テーマの内容や取り扱い方に焦点をしぼると，上述の傾向は昨年においても大体同じように見られると言ってよいと思われる。しかし，こうした記録を更に累積することによって各学年に応じたテーマの形や内容が或程度しぼられ，固定化され，計画段階における指導の参考になるのではないかと考えている。また，このように生徒が自分たちで考えて計画し，実行した成果が次第に淘汰されて望ましいいくつかの活動形態が学年に応じたものとして生み出されたらよいと考える。

そこで，次に票数の多かったものについて，実施の内容，H．Rの書記の感想，生徒の印象について代表的なものをあげてみよう。

〔H．RのL．Tの事例〕

高1C

「友達とはどうあるべきか」　6月16日

内容，最初に友達とは何を指すかについて話し合う。いろいろの意見や考え方が出る。友達とはどんな人を指すかについて，単に学業を共にする仲間，話し

合手になってくれる人，気軽につきあえる人，悲しいこと楽しいことを共に分かちあえる人，同情してくれる人，共に考えてくれる人，長所によって結びつけられた人間関係，たがいに短所を改めあうことのできる人等々。また親友について，友人と親友とは同じものであるという意見と，友人と親友とは別で，親友は1人だけであるべきだという考え方が出たが，結論的には友人と親友との区別は各人の考え方によるということになる。更に友人に何を求めるかについては，友人関係が利害をもって結ばれるとすれば，その利益の形態はなんだろう。それはお互いの人間性を豊かにすることではないだろうか。また友人のために何かしてやることによって人は満足感をもつ。友人関係はすべてギブ・アンド・テイクであるべきだというような意見が出る。

逆に友人関係によって，お互いの間に信，不信というわずらわしい感情も生じてマイナスもあるのではないかという意見も出る。

H.Rの書記の感想

本日の討論会は発言者がいつになく多かったが，数人のものがまだ発言できない。回を追うごとに討議の運営方法がスムーズになっているが，まだ司会者の未熟さが目立つ。全般的にみて75点くらいのできか。

H.R担任の感想

友人についてというだけで思考の範囲が広く，生徒の発言がいろいろの観点からなされ，話しの焦点が合わなかったので途中で発言し，友人に何を求め，何を与えるかということ，生徒達が友人のどのような要因にウエイトを置くかということに話題をしぼって討論させた。その結果，親友という問題について話し合い，大分話しが発展したが，最後は時間切れで結論をまとめるに至らずに終る。

印象調査にあらわれた生徒の感想

○　友達や親友ということについてみんなが考え，いろいろな考え方が発表され，面白く聞け，参考にもなった。(14名)

○　友情はこうあるべきだとか，親友は何んであるべきだなどということについては時間を無駄づかいした感じがする。(3名)

○　担任の先生の発言の内容が印象的であった。(3名)

○　男女の考え方に差のあることがわかった。(2名)

○　男女の考え方に差のあることがわかった。(2名)

以　上

高2A

「クラブと勉強は両立するか」　6月23日

内容，前日のS.Tで両立するか否かについてアンケートを実施。アンケートの結果は，文化系のクラブならば両立するが，体育系のクラブでは両立しないという意見が多かった。しかし，討論のため「する」「しない」の2つに分け，机を向い合わせて座り，討論にはいった。両者の数は「する」という者がやや多い様子であった。討論の内容の概略は次のとおりであった。

M.　文化系クラブならば両立する。しかし，現在の文化系クラブ活動は不活発だ。運動クラブは身体的疲労がはげしく到底両立しない。

H.　規則だからやむを得ずクラブにはいった。体育系クラブは肉体的疲労が勉強に影響するから文化系クラブをえらんだ。クラブ活動は時間の浪費である。

T.　両立する。勉強の面で量的差は質的にカバーできる。

K子.　文化クラブでよくさぼったが，さぼっても勉強はできなかった。クラブをいやいややるようではだめで，自分のやりたいクラブにかわってから，活動をやったことに対する満足感と共に時間を上手に使って勉強するようになった。

C.　運動クラブをやって帰ると疲れてゴロンとする以外にない。とても勉強できない。

B子.　勉強できるできないは精神力の問題だ。

C.　疲労の問題は精神力だけで解決しない。

I.　勉強とは何を指すのか，中間テストの成績順位をみても運動系クラブのものが上位に大勢いるではないか。両立する証拠だ。

J子.　するしないは個人の考え方にある。自分の場合は両立しない。

F.　両立しないと思うのにどうして運動クラブをやめないのか。

J子.　する，しないということと，クラブをやめるやめないということは別問題だ。

E子.　クラブをさぼってもそんなに勉強できるものではない。

M.　たとえ時間的にちがわなくても能率に差がある。運動クラブのものは両立しなくてあたりまえだ。

A.　やろうと思えばできるはずだが，疲れて机に向かっても知らぬ間に眠ってしまう。

S.　疲労の問題は単に精神力や体力の問題だと簡単に割り切れるものではない。

M.　両立するしないは勉強の成績ではなく，ことに打ちこめるかどうかである。仲々勉強とクラブの両方にうちこむのはむずかしい。私自身は高二の段階で

はクラブに真険にうちこみ，高三になったら勉強に真険にうちこもうと思っている。

K．いろいろな考え方があるけれどもとにかくわれわれは両立しないとあきらめないで，両立させるように努力することが必要なのではないだろうか。

H．R書記の感想

両立する，しない双方の人数は両立するとするものの方が多かった。しかし意見は両立するとするものの方が消極的であったような気がする。これは僕自身が「しない」仲間であったためかも知れない。討議の内容は文化系クラブの不活発さも含めてからだに楽で時間も少いという考えと運動系クラブの身体的疲労が勉強に差支えるという考えが基盤になっていたが，やや抽象論が多かった。しかし今までになく活発な意見のやりとりで楽しくL．Tを過せたように思う。

H．R担任の感想

勉強というものの考え方に各人差があって話し合いの焦点がぼけた。この点については途中で生徒自身も気がついている。次に実際に自分の現在の立場で話すものと抽象的な観念論としてしゃべったものがまじったため，討論に進展性がなく，また話し合いの方向が「する」「しない」という水掛論に終始してしまったが，「どうしたら させ得るか」という積極的な構えで話しを進めてほしかったような気がする。しかし，この問題は現在の彼等の生活上の悩みの一端を示すものとして，今後の指導の必要性を強く感じた。

印象調査にあらわれた生徒の感想

○　いろいろな意見が出て面白かったし，自分にもよい刺戟になった。（10名）

○　問題が大きく，現状では結論が出そうもないと感じた。（4名）

○　「する」という意見が多かったが，させるための努力が必要だと思った。（3名）

○　「しない」という人たちも現実的には「させている」ということがわかった。（3名）

○　内容よりも意見の交換が活発に行なわれたことがよかった。（2名）

○　もっと時間をかけて，つっこんで話し合いたかった。（2名）

○　その他（5名）

以　上

(3)　1学期のL．Tの反省

次にあげるようないくつかの問について「はい」，「？」，「いいえ」のいづれかの解答を求めた結果が次のようであった。（数字は実人員）

問1　L．Tの時間は充実したものにしなくてはならないと思いますか

	1A	1B	1C	2A	2B	2C	3A	3B
はい	48	46	38	37	43	38	46	43
？	1	0	9	6	3	7	4	8
いいえ	1	2	2	1	0	2	2	1

問2　L．Tのあり方は現在のようでいいと思いますか

はい	11	22	19	13	9	21	7	20
？	6	9	10	9	8	9	19	9
いいえ	33	17	20	22	29	17	26	23

問3　L．Tの運営のしかたは現在のようでいいと思いますか

はい	4	15	13	17	8	14	9	17
？	2	10	13	6	4	11	17	8
いいえ	44	23	23	21	34	22	26	27

問4　L．Tの内容に興味のあるものがたくさんありましたか

はい	3	9	8	14	6	17	10	6
？	7	9	4	6	5	8	14	9
いいえ	40	30	37	24	35	22	28	37

問5　L．Tの時間は毎週楽しみでしたか

はい	15	16	15	10	9	15	7	19
？	17	11	15	13	12	19	20	21
いいえ	18	21	19	21	25	13	25	12

問6　あなたはL．Tの討論の場に積極的に入りこもうと努力しましたか

はい	17	19	14	12	7	11	11	9
？	6	11	19	16	16	16	19	18
いいえ	27	18	16	23	23	20	22	25

問7　L．Tの時間からあなたは得るものがありましたか

はい	9	18	8	12	10	21	12	11
？	6	11	17	13	15	15	22	23
いいえ	35	19	24	21	23	11	18	18

問8　L.Tの時間がクラスのまとまりに役立ったと思いますか

は　い	13	22	13	21	9	23	25	16
?	13	13	20	11	15	13	18	19
いいえ	24	13	16	12	22	11	9	17

問9　L.Tの時間で友達の考え方がわかり交わりが深くなりましたか

は　い	15	23	17	7	9	12	1	8
?	16	11	22	18	17	17	28	23
いいえ	19	14	10	19	20	18	23	21

問10　L.Tの時間で担任の先生の考え方が理解できるようになりましたか

は　い	13	10	19	12	21	33	13	32
?	14	12	15	21	16	30	27	8
いいえ	23	26	15	11	9	4	12	12

以上の10問のうち1～6問はL.Tの計画，運営に対する考え方，各人の構えや努力に関したもの，7～10問はL.Tの個人及び集団に対する効果に関するものである。この結果をみると，問1からL.Tに関する考え方については相当の積極性がみられるのに対して問2～問6にみると，その計画，運営についてはまだ相当の問題があるように思われる。計画，運営に問題があるとすれば，問7以下の効果に期待することは無理であろう。そのことは数字が明らかに示している。したがって今後の問題として，計画のたてかた，運営のしかたに重点をもっとしぼるべきではなかろうか。

次にこの表をたてに，各H.R別にみてゆくと，それぞれのH.R差がはっきりあらわれている。担任教師の意見なども聞いて，この原因について考えてみるに，室長を中心とするH.Rのまとまりの強さ，H.Rの中に核となるリーダー，まとめ役のいること，またそうしたリーダー格のものに対するH.Rの中の力関係，人間関係などのH.R差がL.Tの成否を決定する諸要因となっているように思われる。

なお，調査の方法として「はい」「いいえ」だけでなく，もう少しその内容の分析できるような調査にする必要を感じた。それが今後の問題として残ったような気がする。

5.　2学期のL.Tへの希望

それでは1学期の反省から，2学期のL.Tへ生徒達がどのようなテーマを望んでいるかを調べてみた。

〔問〕　2学期のL.Tに是非取りあげるとよいと思うものの主題をあげ，その内容も簡単に書きなさい。

まずこの調査に対する解答率は下の通りであった。

H.R ＼ 解答	1A	1B	1C	2A	2B	2C	3A	3B	平均
有記(%)	36	68	52	59	52	74	78	64	60
無記(%)	64	32	48	41	48	26	22	36	40

この解答率と前にあげた1学期のL.Tの印象に対する解答率を比較してみると，大体同じような傾向がある。このことは，1学期に或程度成功したL.Tをもったh.Rの生徒は今後の計画に対しても或程度意欲的な解答をしているといえるのではなかろうか。また，無解答の40%のうち，前の1学期のL.Tの印象に対しても同様に，無解答であったというものが下のような数をしめている。（実人員）

H.R	1A	1B	1C	2A	2B	2C	3A	3B	平均
印象，望希，両方無記	16	2	8	7	14	6	3	6	7.7

このことはどのH.RにもL.Tに無関心を示すものが平均15%くらいいることを示している。こうしたものがL.Tの充実，小集団活動に対するブレーキ的役割を果しているとも考えられるので，L.Tの小集団活動におけるそういう個人に対しての指導もこれからの問題であろう。そこで2学期のL.Tに希望するテーマの主なものをあげてみると次のようである。

1　A	1　B	1　C	2　A	2　B	2　C	3　A	3　B
友達関係と友情	先生とのつながり	男女交際	進学と就職大学選択	進学と就職	進学と就職	男女交際と友情	恋愛について
H.Rのまとまり	H.Rの運営のしかた	校風について	男女交際と友情	男女交際と友情	男女交際と友人	学校のH.Rの問題	H.Rのまとまり

B．発展的目標をもった生徒の管理・指導

高校生活のあり方	高校生のあり方	人生，思想理想，幸福について	高校生活のありかた	高校生活のありかた	高校生活のありかた	いまやるべきこと	高校生活の反省
生徒会役員の選出法	生徒会役員の選出法	生徒会活動について	生徒会と生徒のつながり	H．R のありかた	人生観と孤独感	受験，将来世想について	進路，将来人間関係について
高校生としての態度	高校生のなすべきこと	高校生のありかた	クラブと勉強の両立	勉強法	クラスの融合	クラブ活動と議会	勉強について
フオークダンス	クラブと勉強	クラブと勉強	読書について	他校のH．R活動	勉強の方法	受験勉強の方法	人生論について
レコード鑑賞	男子の問題女子の問題	あだ名について	精神力，偏見，人生について	校内美化	年代の相異	L．T，S．Tのありかた	非行問題について
社会情勢	将来についての話し合い	将来の職業選択	ベトナム戦争の意義について	世界情勢について	クラブ活動と上級生	校風について	体育祭について
	クラスのありかた	附中出身者と外部出身者の考え方について	話し方について	金大戦の反省	学校，先生生徒について	指導者の条件	文化祭について
	各自の体験や考え方の発表	文化祭のありかた	L．T のあり方	レコード鑑賞	日本という国について	信頼と不信と悩みについて	
	掃除，席かえについて	趣味，特技について	金大戦の反省		金大戦の反省		
			レコード鑑賞		服装について		

以上のテーマをみると，学年に関係なく共通したテーマ，学年だけに共通したテーマ，いずれも生徒の生活に身近かな問題，他の人達と一諸に話し合いたいと切実に考えているようなものが多くあげられている。しかし，問題はこれらのすべてのテーマがL．T にとり入られるには時間も少く，また一部の生徒だけに偏よった興味や望みから出たものもあり，すべての生徒の希望をかなえるわけにはゆかない。この事は前の調査で全然無記入で自分の考えを発表しなかった各クラス半数近くのものに加えて，このようにテーマの希望が多方面にわたっていることは計画段階でテーマをいくつかにしぼることの困難さが予想されるといってよいであろう。

つぎに運営の問題であるが，準備に或程度時間をかけることが，L．T を成功させるための一因であると思われるのに，全員が協力し準備に時間をかけていてる小集団が少いように見受けられるのは残念である。それはクラブ活動や生徒会活動に放課後の大部分の時間を割いている現状から考え，無理なことかも知れないが，小集団としての責任感と時間の有効な使い方をくふうするならば，始業前の時間や昼休みの利用によって時間を生みだすだけの意欲がほしいように思われる。

6.　2学期の L. T（テーマの一覧）

H・R 月日	1　A	1　B	1　C	2　A	2　B	2　C	3　A	3　B
9/ 8	文化祭を前にして「学校文化」について考える							
16	後期生徒会役員，委員，　H. R役員選出							
22	体育大会選手，役員せんこう	H. R の計画 体育大会選手，役員せんこう	体育大会選手，役員せんこう	H. R の計画 奈良旅行について	H. R の計画	H. R の計画	体育大会計画	体育大会計画
29	体育大会の練習	掃除について	体育大会の練習				体育大会準備	体育大会準備
10/ 6	体　育　大　会　予　選							
13	レコード鑑賞	体育大会の反省	体育大会の反省	スライドによるアメリカ旅行報告	仲間意識と協力について	「ナポレオン高校生」について	校風について	恋愛と勉強の両立
20	文化祭の計画	クラブ活動について	文化祭の計画	文化祭の意義と内容	レコード鑑賞	大学と将来の結びつき	指導者としての条件	社会悪について
27	文化祭の準備	文化祭の準備	文化祭の準備	ながら族について	若者について	勝ち抜き討論会	文化祭準備	文化祭準備
11/10	読 書 会	男子と女子について	自由時間	親子のはなし合い	社会問題について話し合う	フオークダンス	フオークダンス	フオークダンス
17	クラスでゲーム	球技大会練習	球技大会練習	コーラスとジェンカ	ふたたび仲間意義について	生徒会に望む	高校生活から得たもの	秋の遠足について
24	私達の理想像	人間性と友人について	球技大会選手決定	男女交際の理想と現実	校風と生徒会活動について	X氏への手紙	遠足の反省 S. T の使用法	しりとり歌合戦
12/ 1	球技大会練習	将来について	球技大会練習	X氏よりの手紙	球技大会練習	青春とはこれだ	自己への信頼	球技大会練習 2年と練習試合
15	レコード鑑賞	各自の思想紹介	レコード鑑賞	球技大会練習	レコード鑑賞	球技大会の練習	球技大会の練習	球技大会練習

この表と前の希望の表とをてらし合わせてみると，前にも言ったとおり，少数の者から出された多方面にわたる希望の殆んどがとりあげられていない。しかも高1にあっては，完全に行事にふりまわされている感じがする。しかしたとえ少数のものから出た希望であったにしても，もう少しそれらの希望や意見について

よく検討し，努力したならば，もっと多くの充実したHR．の計画ができたように思う。このへんにも将来へ残された問題があるように思われる。

以上一学期のL．Tを中心として昨年度と比較などもしながら考察してみたが，大体の傾向は昨年度と大差ないように思われるが，問題は大分しぼられてきた感じでる。特に最初の計画段階において今後H．Rの中に小集団を作り，その小集団でテーマを考え，運営するやり方と，反対にテーマを決め，そのテーマに対して希望者が寄って小集団を作るという2つの方法について比較研究することが今後の課題であるように思われる。

Ⅲ．朝礼と生徒集会と中高の分離

月曜日の朝始業前の20分を従来から朝礼として，校長講話を中心として，指導部や生徒会執行部の諸連絡にあててきた。一昨年まで中，高あわせて12学級，高校生の約80%が附中からの進学者という質的にも余り変化のない生徒構成は朝礼も中高合同で実施してきて余り問題はなかった。しかし，中1から高3までという6ケ年にわたる精神年令の開きに対しては，校長の講話がその意図や内容を全校生徒に適確に理解させることがなかなかむつかしく，校長の苦心するところであったことから，中高別の朝礼をもつことがその解決策として考えられた。また指導部が全生徒に学校生活に関するいろいろな指導を加える場合にも中学生，高校生と分けて話しをした方が都合のよい場合がその生活領域のちがいと深まりの点からも考えられた。更に生徒会活動の面からみた場合中学生が学校生活に自主性がなく，常に高校生にたより勝ちとなり，生徒会活動の面でもお互いのためによくない場合がたびたびあり，H．Rの指導と関連して生徒会活動を活発化するために生徒と執行部のつながりを深めてゆくことが必要であり，その機会として朝礼の時間をそれにあてることを考えた。そこで学級増による高校の質的変化とも関係して，今年度から中高別朝礼を考えて，中高合同朝礼，中高別朝礼中高別生徒集会の3つを組み合わせて実施するようにあらためた。

この結果について1学期末に次のような調査を行った。

〔問〕 現在の中高合同朝礼，中高別朝礼，中高別生徒集会についてあなたはどれが望ましいと思いますか。一つえらびなさい。

学年 / 単位 / やり方	高1 (実数)	高1 %	高2 (実数)	高2 %	高3 (実数)	高3 %	総計 (実数)	総計 %
中高合同朝礼だけがよい	(3)	2	(4)	3	(6)	6	(13)	3
中高別朝礼だけがよい	(18)	2	(28)	20	(22)	21	(68)	18
生徒集会だけがよい	(36)	12	(21)	15	(13)	13	(70)	18
中高合同朝礼と中，高別朝礼がよい	(3)	25	(3)	2	(2)	2	(8)	2
中高合同朝礼と中，高別生徒集会がよい	(3)	2	(3)	2	(1)	1	(7)	2
中高別朝礼と中，高別生徒集会がよい	(51)	35	(51)	37	(39)	38	(141)	36
現在どおり3つの組合せがよい	(31)	21	(22)	16	(19)	18	(72)	16
無答	(2)	1	(5)	3	(2)	2	(9)	2
計	(147)		(137)		(10)		(388)	

この表からわかるように，従来の中，高合同朝礼だけでよしとするものは，わずかに3%を数えるのみである。それに反して中，高別朝礼と中，高別生徒集会がよいとするものが最高の36%をしめていることも新しい方法の成果と今後の方向を示しているものとみてよかろう。

1. 朝 礼

従来校長が朝礼講話のときに，度々その話の手がりとして「7つのF」について話を展開されてきた。

「7つのF」とは fair play（公正な態度），fine play（立派な態度），fight（闘志），fiction（作戦）flight（飛躍），friendship（友情），fellowship（協力）で，これがどのくらい生徒に定着したかを10月にはいってから調べてみた。

〔問〕 校長先生がよく話される「7つのF」をあげなさい。（英語でなくてもよい）

	1A	1B	1C	2A	2B	2C	3A	3B	計	%
fair play	40	21	32	38	47	37	49	49	313	79.8
fine play	21	17	22	33	47	26	31	40	237	60.3
fight	42	24	38	40	47	37	52	48	328	83.4
fiction	16	0	1	28	47	6	11	21	130	33.1
flight	0	6	1	19	47	12	9	22	116	29.5
friendship	40	62	27	39	47	30	40	49	298	76.0
fellowship	19	9	7	27	47	16	12	37	174	44.3
計	178	103	128	224	329	164	204	266	1596	58.0
学級人員	50	47	50	47	47	48	52	52	393	
1人当に対する7つの定着率	3.6	2.2	2.6	4.8	7.0	3.4	3.9	5.1	4.1	
無解答者	5	6	6	0	0	0	1	0	18	4.6
各H.Rに平均して多い誤答 free	29	21	11	2	0	3	3	7	76	
各H.Rに平均して多い誤答 fresh	14	1	6	0	0	1	2	2	26	

その他の誤答　factory (8)　fast (5)　fortitude (5)　fly (4)　future (3)
frank (2)　force (2)　fairy (2)　fill (1)　full (1)　fame (1)
fear (1)　face (1)　fact (1)　flesh (1)　frontier (1)

この表でわかるように，半分以上の項目が，全校の半数以上の生徒に定着していることがわかる。特に定着度のよいものは fight, fair play, friendship の3つで何れもスポーツや日常の交友と関係が深いものである。また同じようなものであるが，fine play fellowship となると定着度が落ちる。特に fiction とか flight のような内面的なものは定着度が悪い。

高1は校長の講話を聞く機会が未だ少いためとも考えられるが，定着率が他の学年にくらべて落ちる。

高2Bは体育大会のH.Rのデコレーションに「7つのF」をテーマとしてとりあげた時期と調査時期が重なったため100%の定着率をあげたが，それにしても，これをテーマにとり上げることに一致したH.R内でのグループダイナミックスには注目すべきものがあるように思う。また，校内で起った問題とこの「7つのF」をからみ合わせて訓示されたことのある該当H.Rであった高1Aと高3Bについてみると高1Aは高1の中で1番率が高く，高3Bも高2Bについで2番目の定着率を示している。これから考えても，繰りかえしと，身近かの問題が定着率を高めるといえるのではないだろうか。

つぎに，1学期の終業式の校長の訓示で特に強調して話された「7つのF」のうち「friendship」について，どのくらいの定着があったかを，同様に調べたのが下の表である。

〔問〕 第1学期の終業式のとき，校長先生が特に最近の校内でのいろいろな現象を考えあわせるといつもあげている7つのFの順序をかえて，特に最初に強調したいのはといってあげられたのはどのFでしたか，（英語でなくてもよろしい）

	1A	1B	1C	2A	2B	2C	3A	3B	計	%
friendship	6	5	2	1	11	4	4	15	48	122

B．発展的目標をもった生徒の管理・指導

fellowship			2	5	8	4	2	2	23	5.8
fair play	19	2	3	11	15	6	8	8	72	
fihe play	1	2	1	1	2	2	1	1	11	
fight		3		1	6	1	2	2	14	
flight				3	2				5	
fiction	2			6	4				12	
friendship の解答率	12.0	10.6	4.0	2.1	23.4	8.4	7.7	28.8		
無　解　答	22	30		19	0	31	35	24	201	
誤　　答		5							7	

friendship を10月はじめになお印象として残していたものは全校生徒の約12.2%で，それと近い意味をもつ fellowship を含めても約18%である。

H.R 別にみると最高が15名の28.8%，最低がわずか1名の2.1%であるが，特に学年としての傾向はみられない。率の高いのは前の調査と同様にH2B，H1A，H3Bであった。このことと前の調査とから簡単なことであるが，与えようとするもののくりかえしと，それを受けとめるものの積極的な構えの重要性が改めて認識させられる。

そこで，こうした朝礼での校長講話に生徒がどのような話題や内容を望んでいるかについて調査してみた。主なものをあげると，次のようである。

〔問〕 朝礼で校長先生に話して頂きたいと希望するテーマを2つ書きなさい。

学生生活の意義（在るべき高校生活）	(38) 名
校長先生の体験談	(32)
校長先生の高校時代の悩みと，その解決	(28)
時事問題（政治問題も含めて）	(26)
友情について	(26)
人　生　論	(23)
交友について	(22)
校長先生の目に映った本校生	(19)
期待される人間像	(16)
校長先生ばかりでなく他の先生方の話も聞きたい	(11)
クラブ活動について	(10)
先生と生徒とのつながり	(10)
校長先生の高校時代の勉強法	(10)

この調査からわかることは，現在，生徒達がもっている悩み，例えば高校生活の意義，勉強法，友達関係のあり方など，今の自分の生活に直接関係のあるものについて，校長先生が学生時代どうやってこられたか又現在のわれわれとしてはどうするべきかということに集中している感じがする。

このことは，H.R の L.T のテーマについても同様のことがいえるのであるが，現在の高校生の旺盛な生活意欲のあらわれともいえるのではなかろうか。いずれにしても校長講話にいわゆるお説教や道徳講話を望んでいないことは確かである。このへんに校長講話と生徒との結びつきについての在るべき方向がわかるような気がする。

2. 生徒集会

1学期のこの朝礼時間を利用しての生徒集会は，先にものべたように，H.R と生徒会執行部とのつながりを密接にし，生徒会執行部が全校生徒から浮き上がるのを防ぎ，生徒会活動を活発にし，活動の円滑化の役目をはかるために計画されたものであり，このことに対する効果については朝礼を中高別朝礼と，中高別生徒集会にしたほうがよいとするものが，36%もいた前の調査で，はっきりうかがうことができる。

この生徒集会は朝礼形式で主として生徒会執行部や委員会からの諸活動に対する意図の徹底，H.R などに利用され，一応所期の目的を果しているものと考えられるが，さらにその活動内容の幅をひろげることと質的に高める努力によって，一層の効果を期待しうるように思う。

そこで，こうした生徒集会に生徒がどのようなあり方を期待しているかについて調べてみた。主なものをあげると次のようである。

〔問〕 月曜日の朝の生徒集会で，こんなことをやってみたらということを具体的に書きなさい。

生徒会活動の報告（協議会，委員会などの）	(55) 名
みんなで話し合える集会を	(38)
合　　唱	(15)
生徒会執行部の方針（要所要所で適時に）	(13)
クラブ活動の近況報告	(11)

H.Rの近況報告	(10)
輪番による演説	(10)
ラジオ体操	(8)
毎週生活目標をつくり，その反省をする	(7)
その他，他校の生徒会の紹介，指導部の先生との話し合い 校長先生との話し合い，行事の運営についての話し合い	

この調査からわかることは，生徒会活動について，執行部とのつながりを深めようとする意欲，執行部から全校生徒へというばかりでなく，生徒から執行部へという気持のあらわれていることがよくわかる。従来ややもすると執行部が全校生徒から浮きあがってしまったり反対に執行部が全校生徒からつきあげられることがあったけれど，それを防ぐためのにもこうした意見を参考にすることによって今後の生徒活動の一面としてこの生徒集会の果す役割りは大きいといわねばなるまい。

Ⅳ. H.R担任会議と室長会議

生徒指導は教師全員が指導部を中心として一つの統一された意図のもとに，行なわれなければ効果的な指導を期待することはできない。そこで教官会議を利用して生徒指導についての話し合いをもつ機会をできるだけ多くすることは勿論であるが直接生徒指導に関係の深い指導部と学級担任が話し合いの機会をもち，そのつながりを密にし，生徒指導に当ることができるようにとの意図のもとに学級担任会議をもつことにした。

それは大体月に1回くらい，不定期の会合であるが生徒指導についての問題をもちよって話し合い連絡するためのものである。

最初の会合で「他人の自由の尊重できる人間を作る」という指導目標が確認され，そのためには生徒の自主的な活動をより効果的に伸長することが重要であるとの指導部の意図が説明された。更に各学年ごとの指導目標として，高1に対しては，新しい環境への積極的適応，高2に対しては集団の中での個性の伸展と学校生活における諸活動の充実，高3には3ケ年の生活のまとめと，新しい社会への準備によって進学，就職問題による混乱のおきぬように指導の重点をおくというようなことが話し合われた。そして，以後毎回指導部から，担任から学校生活について，いろいろの問題が提起され，討議され，現在に及んでいる。

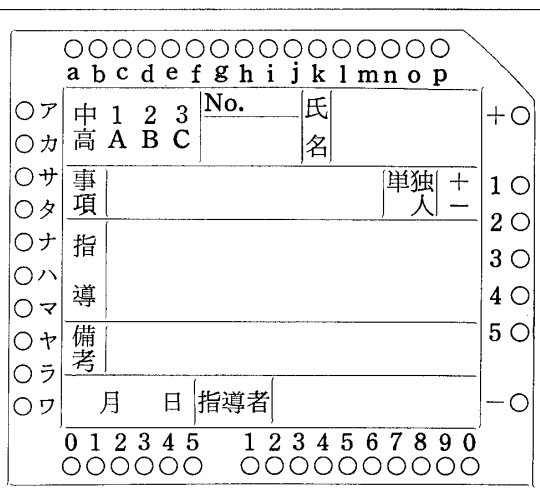
こうして担任が指導部を中心として連絡をとり合って生徒指導に当ることは指導の統一と徹底に相当効果があったように思う。

一方H.Rに縦，横の連絡をとって一つの校風をつくりあげてゆくための一助としてH.R担任会議と並行してH.R室長会議を設けた。これは担任会議と同様にH.Rの活動に統一性をもたせ，指導部の生徒指の意図を各H.Rに徹底させ，またH.Rからの希望や意見も聞く機会として有益であると思っている。例えば前にあげたH.RのL.Tに関する調査などの資料を室長会議に提供することによってL.Tの計画への助言の円滑化，L.T計画の縦横の調整等，担任会議とからみ合わせて実施することによって指導の統一と徹底に効果があるといえる。又こうした機会に室長を通じH.Rからの希望や意見が指導部へ通ずる道のできたこともわれわれがねらっていた生徒指導の基盤としてのH.Rと指導部が密接で有機的なつながりをもつようになったといってよいであろう。

Ⅴ. 指導カードと個人指導

生徒指導は，指導事項の多様性の上に，質の正負（望ましいものと，望ましくないもの），それに量の問題（大きい事件と，ささやかな事件）もからみ，さらに指導者の判断の基準も加わって，いわゆる大きな事件以外は全教官に知られることは少い。しかし，日々変化してゆく生徒の1人1人に，より効果的な指導を適時に加えてゆくためには，些細なことであってもお互いが承知していることが必要ではないだろうか。この目的をなるべく手数のかからない方法で実施したのが「生徒指導カード」の方法であった。

指導カード



（記入要領）

○　事項は簡単に。

○　＋は望ましいもの，−は望ましくないものの別。

○　指導は要点，生徒の反応などを判りやすく。

○　備考は今後の指導上，特に留意した方がよい

と考えられる点や，大きい事件で未解決のときは処理の方針など。
○　月日は報告の月日ではなく指導の月日。
○　取り上げる程度は，小さい事項でもなるべく報告。
○　個人でなく集団の場合のカードは個人別に。

このことについては，昨年も発表したが，昨年より1ケ年半に蓄積された結果はつぎのようである。（この資料はマイナスの記入されたカードについての集計であり，また高1の附属中学から進学したものについては，中3からの累積であり，外部中学よりの入学者については半年間の資料である。）

H．R ＼ 1人当りの枚数	1 A 外	1 A 附	1 B 外	1 B 附	1 C 外	1 C 附	2 A	2 B	2 C	3 A	3 B	%	計
5枚以上						1			1		1	3	0.9
4　枚				1			1	1		1	3	7	1.7
3　枚		2		1			1	1	6	3	2	16	4.0
2　枚		4		2		2	4	2	3	4	4	25	6.3
1　枚	4	6	2	8		7	13	13	6	11	12	82	20.8
計	16		14		10		19	17	16	19	22	133	33.7
1枚もなかったもの	34		35		39		28	31	32	33	30	262	66.5

以上のようで，この1年半の間にマイナスの行動として記入された指導カード233枚の配分は，1人で最高10枚も記入されたものから1枚だけのものまで含めて133名，全体の33.7%に当る。このことはこの1年半の間に全校生徒の約3/1に当るものが多少の差はあれ，個人的に教師のかなりな程度の指導を加えられたことを示すものであろう。また，指導カードの配分がクラス差なくあらわれていることは，等質学級編成をねらったわれわれの目的が或程度達成されているとみてよかろう。

このカードによって担任は今まで知ることのできなかった他の教師による指導を知り，生徒の個人指導に一層の適確さを期し，指導の手がかりを得ることができるようになった。又担任以外の教師もこのカードによって生徒の個人個人の状態を知ることができるようになり貴重な資料とされている。

またこうしてカードにあがってくる生徒の大部分は個人的に何らかの問題をもっており，後述の生徒指導のための基礎調査にみても相当数の生徒についてかなりはっきり問題の所在が明らかにされているが，そうした生徒が，H．R の活動に多かれ少なかれ影響を与えている。

H．R 指導という全体的立場からみても，こうした集団からはみ出すもの，はみ出そうとするものに対して，常に指導の手が差のべられることが，その個人に対しても，その集団に対しても大切なことであると思われる。

Ⅵ．問題点把握のためのその他のこころみ

高1の入学時における学校に対する期待などの調査年昨と同様に学級増による質的変化の状態をほり下げてゆくために，高1に対して入学式前の出校日を利用して学校に対する期待などの調査を行った。その結果は次のようであった。

〔問〕 あなたが本校の進適を受けることに決めるとき最も強い影響を受けたのはだれの意見ですか。

出身	年	先生	父母	その他の家族	友人	その他	計
附	40年	229	47	1	8	15	%
	41年	11 (8)	61 (43)	1 (1)	10 (7)	17 (12)	% (71名)
外	40年	36	28	5	10	21	%
	41年	32 (25)	35 (27)	9 (7)	10 (10)	13 (10)	% (77名)

〔問〕 その意見の中で最も大きな理由となったことを1つだけ具体的に書きなさい。

（附中出身者）

(%40年，41年)	事　　項	40年	41年
消　極　的 (61，35)	容易に入学できる	15	21
	他の高校を受験する理由がない	8	2
	本校以外にはよい高校にゆけそうもない	8	2
積　極　的 (31，35)	本校の教育がよいと考えた	7	10
	自分の力を伸ばすことができると思った	7	5
そ　の　他 (18，30)	経済的理由	6	1
	受験に気をつかう必要がなかった	2	
	親しみがある　(附中にいて様子がわかっているから)		10
	通学に便利だから		4
	親しい友達が受験したので		6
	計	53	71

（外部中学出身者）

(%40年，41年)	事　　項	40年	41年
消　極　的 (38，23)	受験の練習と考えて	15	13
	自分の能力にあった学校なので	6	1
	姉や兄が以前在学した学校なので		4
積　極　的 (23，51)	小定員校のよさにひかれて	5	5
	個性を伸すのによい学校だから	4	7
	レベルの高い学校だから	3	3
	教育方針がよい (7)　よい先生が多い (2) 校風がよい (7)		16
	環境がよい (2)　設備がよい (6)		8
そ　の　他 (39，23)	国立でよい学校だから	19	3
	交通が便利だから	3	8
	今年から選抜法が変ったので		3
	自分で考えてきめた		4
回答なし (0，3)			2
	計	57	77

〔問〕 あなたは合格が決定した後，この学校にくることについて迷いましたか。

	附　　%	外　　%
迷わなかった	(69名)　97	(57名)　74
迷　っ　た	(2名)　3	(20名)　26

B　発展的目標をもった生徒の管理・指導

〔問〕 あなたはこの学校にどのような期待をもっていますか。

（外部中学出身者）

事　　項	40年	41年
設備が充実している	16	4
生徒会活動が活発である	16	3
自由なふんいきである	16	18
小定員だから皆と親しめる	12	3
のんびりしている	11	2
先生と親しくなれる	10	1
楽しい学校生活が過せる	10	4
平凡だが落着いた学校である	7	
勉強しやすい	7	4
なごやかな学校である	7	
勉強だけに偏らない広い人間教育をしてもらえる		5
自由な生徒活動（勉強，運動）ができる		8
よい友達がたくさんいる		8
立派な先生に指導してもらえる		3
ゆき届いた教育をしてもらえる		7
計	115	70
その他小数項目の合計	53	18
無　記　入	0	9

（附中出身者）

事　　項	41年
明るく楽しく勉強できる	11
大学入試のためだけでない勉強ができる	13
親友が得られやすい	10
先生と親しみやすい	6
クラブ活動がさかんである	9
自由な校風である	8
充実した高校生活ができる	5
たて，よこの結びつきが密接である	2
個性を伸してもらえる	1
外部からの入学者との間にはげしい競争がある	1
規律ある明るさがある	1
苦しい毎日だろう	1
計	68

無　記　入	16

〔問〕 あなたが入学式までの2週間に1番やりたいことは何ですか。

事　　項	附　中	外
思い切り運動をする	9	13
旅行する	6	4
友達と遊ぶ	2	5
教養のための読書をする	2	9
高校の勉強についてゆけるように不得意な科目をまとめる	2	8
レコード鑑賞，音楽（ピアノ，バイオリン）	1	1
星の観測をする	1	
新しい教科書をみる	1	
自分の趣味を生かす		15
英語の勉強をする		3
そ　の　他		2
計	24	60
無　記　入	6	9

〔問〕 あなたは入学後どのような生活目標をもっていますか

事　　項	附　中	外
クラブ活動をしっかり	30	9
よい友達を得ること	20	15
勉強をしっかり	18	13
目的の大学に入学できるように	9	15
悔いのない高校生活を	7	6
充実した高校生活を	5	1
毎日を大切に	1	
クラブと勉強の両立	2	1
中学時代より勉強をしっかり	2	2
英語をしっかり	3	2
得意な科目を思い切り伸ばす	6	2
計画的な生活	5	4
留年はしたくない	3	
他人の自由を尊重する	3	
自分の意見に責任をもつ	3	
外から来た人とわけへだてなく	3	
外から来た人に負けないように	3	

B．発展的目標をもった生徒の管理・指導

事　　項	附　中	外
少なくとも標準の成績を	4	
広い教養を身につける	3	3
クラブで金大戦に出られるように	2	
からだをつくる	4	9
よく泳げるように	1	
生徒会活動をしっかり	1	
遅刻しないように	1	
自主的精神を確立		2
物ごとにけじめをつける		2
個性を伸ばし，自己を完成させる		5
自己の可能性をためす		3
早く学校のふんいきになれる		3
知識だけにかたよらず人間的に成長したい		2
何事も積極的に		2
自分の短所をなくす		1
他人から尊敬される人に		1
規則正しい生活		1
何事も努力する		1
のんびりした生活		1
計	139	106
無　記　入	2	7

以上の調査からわかることは昨年と大体同様ではあるが，まず学校選択に当って附中出身者は父母の助言によるものが多いのに対し，外部中学出身者では学校の先生の助言によるものが多い。また助言の内容についてみると本年は昨年に比べて消極的理由をあげているものが非常に減少していることは注目してよいと思う。また消極的理由をあげたものが外部中学出身者に比べて附中出身者に多い点はいろいろ考えさせられるものがある。

次に合格後の迷いについては外部中学出身者に多くなっていることは当然と考えられる。

さらに本校に対する期待については昨年と同様に，附中出身者の方が具体的で本校の実情をふまえたものであるのに対し，外部中学出身者のそれは，外観や印象をもとにした漠然としたものが多い。

入学式前にやりたいことについては，外部中学出身者に，読書とか復習とか高校への構えが着実な者が多いように見受けられる。入学後の生活目標については数は余り多くないにしても附中出身者の中には外から来た人とわけへだてなくとか，負けないようにと外部中学出身者を意識した解答があったのに対し，外部中学出身者からはそうした解答が出なかったことは面白い結果のように思う。

Ⅶ．おわりに

以上 H.R の L.T のグループによる計画，運営というグループ活動からはじめて，1つの H.R をまとめあげ，活発な，意欲的な H.R にしてゆこうとするのがわれわれの第1のねらいであった。

次に H.R のグループダイナミックスが，単に各 H.R 内に留まらず，更によい校風と伝統の形成に向って積極的に方向づけられてゆくために必要だと考えられたのが，H.R 担任会議であり，室長会議である。また H.R 活動と深いつながりをもつ生徒会活動にも力を入れることの重要性を痛感している。

こうした一連の深いつながりをもつ諸活動に対し，われわれは昨年より調査し，考察し，研究を進めてきた。これらのデータの中には附属という特殊性によるものがあり，また中・高が教官面，施設面その他生徒の活動場面の一部まで完全に一体化しているという本校だけの特殊事情の影響もないとは言えない。それに都会の学校がしだいにマンモス化している現在，学級増の完成年度においてさえも中・高6学年合わせて15学級という小規模学校の特殊性があるかも知れない。

しかしわれわれのこの研究は毎日毎日を生徒指導に努力しながら，その失敗あるいは成功の記録を1つつ1つみあげたものであり，常識的なことの裏付け的なものでもあるが，これら実践的資料の累積が今後の生徒指導の問題に役立つであろうことを期待し，われわれの意図と努力の一端をくみとって頂けるならば，そして幾分でも参考の資に供されるならばこれ以上の幸いはないと考える。

（原田・戸苅）

第6報　生徒の道徳性・親子関係

― 指導のための基礎調査 ―

1. まえがき

生徒指導を適切に行なうためには，生徒の実態を適切に把握することが必要である。我々現場の教師にとっては，毎日の生活の中での指導と観察にもとづく直観的な把握が何よりも大事であることはいうまでもないが，それを客観的に裏づけ，時としては修正し，或いは直観的には正しいと考えられることと，客観的なデーターとの差異にぶつつかって，その差を生ぜしめた原因がどこにあるかを考えてみることも，大事なことである。

その観点から，中学・高校全体にわたって道徳性診断テスト注①を，中学のみに親子関係テスト注②を実施した。その結果を整理して，大要次のような一般的傾向と問題点をとらえることができたように思う。

注①②とも田研式，田中教育研究所人格研究部　日本文化科学社発行

2. 〔道徳性〕の一般的傾向

中1から高3にかけて，道徳性の診断値（偏差値MSS）の分布をパーセントで現わしたものが表①の右側である。左側の全国標準の理論上の分布と対照してみていただくと，本校生徒の場合，中学ではピークが（＋1）のところである。ただし中3になるにつれてやや下っていく傾向がみられる。その傾向は高校にいくにつれてますますはっきりしてきて，大体においてピークははっきりと（0）にうつり，全国的高校の標準とほぼ同じになり，（−2）は全国的な理論上の分布よりふえている。

このことは，中学と高校との道徳意識の発達過程を

表　①

MSS	パーセンタイル分布（理論上の）		中1	中2	中3	中全体	H1	H2	H3	高全体
75〜以上	1%	＋2								
65〜74	6%		7	3	3	5	1	3	2	1
55〜64	24%	＋1	64	47	42	51	29	25	25	27
45〜54	38%	0	27	47	49	41	48	37	36	42
35〜44	24%	−1	2	3	5	2	18	22	20	20
25〜34	6%	−2			1	1	2	9	12	7
24以下	1%						2	4	5	3

とである。

も意味しているのではないか，と思われるが，とにかく考えさせられる。本校では附属中学の卒業生の大半が附属高校に入り，外部の中学から約半数入る（現高3の入学時は約20名位）ので，外部からの高校入学者の故のみとは考えられない。やはりひとつの中学―高校での変化という要因を大きく考える必要があると思うのである。

その点から，第2表の領域別のパーセンタイルの変化を分析的に考察してみよう。

A＝自己　　B＝家庭　　C＝友人　　D＝社会